

命をつなぐ

エンド・オブ・ライフ

佐々涼子／著 集英社インターナショナル



訪問医療を行う診療所の取材を通して、最期を迎える患者とその家族、彼らを支える医師や看護師、ヘルパーなどを描くノンフィクション。末期がんになった友人の訪問看護師、難病を患う著者の母と7年間介護を続ける父の物語を中心に、正解のないそれぞれの生き方を綴る。

飼い喰い 三匹の豚とわたし

内澤旬子／著 岩波書店



世界の屠畜現場を取材してきた著者が、自らも3頭の豚を飼い育て、屠畜場に出荷し、肉にして食べるまでの1年間を追ったポルタージュ。廃屋のような元居酒屋を借り、豚舎をつくり、糞尿処理に頭を悩ませる養豚生活を、著者のイラストとともにリアルに描く。

自分の力で肉を獲る 10歳から学ぶ狩猟の世界

千松信也／著 旬報社



学生時代のアルバイト先に狩猟の名人がいたことから狩師になった著者。狩猟をはじめ19年目の著者が、わなの仕掛け方やしとめ方、解体法や食べ方を解説。自然や動物を知り、自分の知恵を使い獲物を獲ることの魅力、命をいただいで生きる日々を綴る。

技を極める

アマゾンの料理人

世界一の“美味しい”を探して僕が行き着いた場所
太田哲雄／著 講談社



地元長野から東京の有名店を食べ歩きしていた高校生が、語学留学を経て、日本、イタリア、スペインで料理人として働くうち、各土地に根付いた伝統料理に魅かれ南米ペルーへ、そしてアマゾンに辿りつく。著者のバイタリシティ溢れる行動力と探求心が前を向くことの楽しさを教えてくれる。

そこに工場があるかぎり

小川洋子／著 集英社



工場は「人間の知性と感情が詰まった場所」。作家・小川洋子が心惹かれた6つの工場（穴開け、お菓子、ボート、大型ペーパー、ガラス、鉛筆）の探訪記。それぞれの工場で作られるオリジナリティ溢れる製品の魅力と、それらを手がける人たちの情熱と誇りが綴られる。

本をつくる 書体設計、活版印刷、手製本 —職人が手で作る谷川俊太郎詩集

鳥海修、高岡昌生、美鷲堂／著 河出書房新社



本づくりの過程の中で、あまり目に触れることのない職人たちの仕事に光を当てた一冊。一冊の詩集をつくるための書体設計、活版印刷、手製本の過程を辿りながら、研ぎ澄まされたその技を紹介していく。それぞれの職人のこれまでや仕事への思いを語るインタビューも興味深い。

将来や進路を考える中学生・高校生にすすめるノンフィクション

世界とつながる 自分をひらく20冊

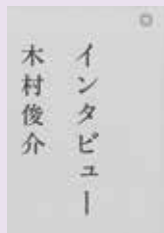
～いろいろな仕事に打込む大人たち～

中学生・高校生みなさんが、自分の将来や進路について考える際の参考になるよう、様々な生き方や職業を描いたノンフィクション20冊をご紹介します。

社会をつなぐ

インタビュー

木村俊介／著 ミシマ社



約20年間にわたり1,000人以上にインタビューしてきた著者が、インタビューの具体的な方法や、その可能性について語る。インターネット等で情報が簡単に手に入る現代に、足を運んで人に会い直に話を聞く「インタビュー」という道具を丁寧に磨いてきた著者の仕事論。

写真で伝える仕事 世界の子どもたちと向き合って

安田菜津紀／著 日本写真企画



フォトジャーナリストの著者の原点は16歳の時に訪れたカンボジア。「シャッターを切る前に人の声に耳を傾ける」ことを大切にしている著者が、世界各地の子どもの写真を通して、戦争や貧困で日常を奪われた人々の現状を伝える。私たちに何ができるかを問いかける一冊。

ブルネイでバドミントンばかりしていたら、 なぜか王様と知り合いになった。

大河内博／著 集英社インターナショナル



経済産業省からブルネイ日本大使館に赴任した著者は、当初独特のお国柄に馴染めず仕事もうまくいかない。そんな時、この国のバドミントン熱に触れ、中高生時代に取り組んだバドミントンを通じてブルネイと深く繋がっていくことに。悪戦苦闘しながら行動し続ける姿が印象的。

吾輩はガイジンである。 ジブリを世界に売った男

スティーン・アルパート／著 桜内篤子／訳 岩波書店



ジブリ作品を海外に15年間紹介してきた著者が、その苦勞をユーモラスに語る。『となりのトトロ』では父親と娘と一緒に風呂に入る場面が、『風の谷のナウシカ』では飛行中にお尻が見える場面が問題とディズニーから指摘され…。次々と問題が出てくるドタバタ感が楽しく読みやすい。

編集発行／福井県立図書館

〒918-8113 福井市下馬町51-11 Tel. 0776-33-8860

<http://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/tosyo/index.html>

令和4年2月発行



「好き」をつらぬく



鳥類学者だからって、 鳥が好きだと思ふなよ。

川上和人／著 新潮社



著者が小笠原の無人島でミズナキドリの間調査をしていると「突如として頭に暴力的な衝撃」が。その正体は耳穴に飛び込んだ蛾だった。成り行き任せて鳥類を研究することになったという著者の研究の現場をユーモアたっぷりに綴る自然科学エッセイ。

ミレニアム・ファルコンを作った男 45歳サラリーマン、「スター・ウォーズ」への道

成田昌隆／著 光文社



アメリカでサラリーマンとして働いていた著者がハリウッドでCGモデラーとして活躍するまでを描く。1995年、世界初フルCGアニメ映画『トイ・ストーリー』に衝撃を受け、仕事の傍らCGアニメの制作を開始する。著者は自分のやりたいことを問いつつ、約20年をかけて憧れの世界に辿りつく。

クジラの骨と僕らの未来

中村玄／著 理論社



中学時代のあだ名は爬虫類好きの「ハチュウ」。珍しいトカゲを飼ったり、埋葬したハムスターのお墓を掘返し骨格標本を作ったり、子どもの頃から生き物が好きでクジラ研究者となった著者のこれまでに綴る。ストレートな語り口が読みやすく、著者による挿画も効果的。

ウルド昆虫記 バッタ倒しにアフリカへ

前野ウルド浩太郎／著 光文社



幼い頃からの夢、「昆虫学者」を目指してバッタ研究者になった著者。31歳の春、バッタ大発生による深刻な飢饉が起きているアフリカに単身飛び立った。しかし、肝心のバッタは現れず、手持ちの貯金もわずかとなり…。夢に向かって奮闘する日々を綴った一冊。

もがいて、もがいて、古生物学者!! みんなが恐竜博士になれるわけじゃないから

木村由莉／著 ブックマン社



国立科学博物館研究員の著者が、恐竜の研究者を目指しながらも、ネズミなど小さな哺乳類の進化史を研究する古生物学者に辿りつくまでの自伝的エッセイ。著者の人と繋がっていく姿勢、自分に向かい合う姿勢が印象的。研究内容の部分は専門的なところもあり。

世界をかえる



職業は武装解除 (朝日文庫)

瀬谷ルミ子／著 朝日新聞出版



17歳の時に難民キャンプの親子の写真を見たことをきっかけに、元兵士や子ども兵士の社会復帰をめざすプロとなった著者。国連にアポも伝手(つて)もなしに飛び込むようながむしゃらさと現状を俯瞰する冷静さをもって、武装解除の現場に立ち続ける半生を綴る。

パルプ・ノンフィクション 出版社つぶれるかもしれない日記

三島邦弘／著 河出書房新社



一冊入魂を掲げて出版点数を絞り、書店と直取引する「小さな総合出版社」ミシマ社を2006年に単身で設立した著者。出さないで決まっていた雑誌を出版し、大きくなった組織の在り方に悩み、さらには倒産の危機に直面する。2015年から4年間の熱い試行錯誤が詰まった出版エッセイ。

公務員という仕事 (ちくまプリマー新書)

村木厚子／著 筑摩書房



「公務員の仕事は、長い距離をバトンをつなぎながら進めていく仕事」。公務員として37年半働き、22のポストを経験した著者の男女平等や障害者雇用への取り組み等を紹介し、一見地味だが、長い目でみれば社会全体を変革できる仕事の醍醐味を伝える。

鉄道デザインの心 世にないものをつくる闘い

水戸岡鋭治／著 日経BP社



JR九州の豪華列車「ななつ星in九州」等の鉄道デザインで知られる著者の仕事論。利用する人の最善を追求する著者は、車両にタブーだった木やガラス等を取り入れ、人間国宝に洗面鉢を造らせ、誰もやったことのないもの造りに取り組んでいく。図や写真が豊富で、語り口調の文章が読みやすい。

Mr.トルネード 藤田哲也 世界の空を救った男

佐々木健一／著 文藝春秋



ほんの30年前まで頻発していた“謎の墜落事故”の原因を突き止め、航空事故を激減させた気象学者藤田哲也の伝記。竜巻が発生すればすぐさま飛行機で飛んでいき、徹底した観察から推論を導き、繰返される仮説への批判にもひるまなかったMr.トルネードの偉業を伝える。

もっとよみたい

1

将来や進路を考える中学生・高校生にすすめるノンフィクション

「世界とつながる 自分をひらく この1冊」

福井県立図書館ホームページでは、このリーフレットに紹介している20冊のほかにも、様々な生き方や職業を描いたノンフィクションを、約100冊紹介しています。



中学生・高校生にすすめるノンフィクション

もっとよみたい

2

子どもの成長段階に応じた推奨図書(中学生・高校生編)

『コレ、ヨモ! ~あなたの扉を開ける72冊~』

中学生や高校生のみなさんにおすすめする本を、紹介文とともに掲載しています。



子どもの成長段階に応じた推奨図書